氏名	柏原瑩爾
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第618号
学位授与の日付	昭和49年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	Inhibitory Effect of Isologous Regional Lymphnode cells from the Methylcholanthrene-induced Sarcoma bearing Mice on the Iumor in Vivo. (Methylcholanthrene 誘発肉腫の同系移植マウスの局所リンパ節細胞の抗腫瘍性について（In Vivo.）)
論文審査委員	教授 砂田輝武　教授 小川勝士　教授 妹尾左知丸

学位論文内容の要旨

自然発生腫瘍や同系癌移植の場合，担癌生体に concomitant immunity（共存免疫）が成立するかどうか極めて重要なる問題である。

そこで，抗原変化のまず考えられない継代1～2代目のMethylcholanthrene誘発肉腫（MC）をマウスの背部皮下に同系移植し，経日的に局所腋窩リンパ節をとりだし，その抗腫瘍性の有無を in vivo の中和移植実験で検討した。まず，Madden-Burk法で固形MC肉腫より遊離腫瘍細胞を採り出し，最少可移植数 2×10^5 個／匹 s.cを求める。500×10^4 個／MC肉腫細胞を C_3H 系マウスの背部皮下に移動後，1, 2, 3, 4 週目に局所腋窩リンパ節リンパ球を採り出し，MC肉腫細胞 2×10^5 個にリンパ球を 2×10^6 個混合し別の正常 C_3H 系マウスの背部皮下に移植する中和移植実験を行った。

MC肉腫移植1, 2週の早期群では，局所のリンパ節に強い抗移植性があり，腫瘍の take 率も増殖も低下している。他方，3, 4 週の比較的末期の群ではむしろ腫瘍の増殖の促進がみられた。すなわち，腫瘍免疫の中心をなすリンパ球の concomitant immunityは，腫瘍の小さい早期には存在しているが，進行癌の状態では少くとも局所リンパ節の concomitant immunity は消失しているものと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究は，Methylcholanthrene 誘発肉腫と同系移植したマウスの局所リンパ節細胞の抗腫瘍性について研究したものであるが，未だ十分に明らかにされていない担癌生体における抗腫瘍性の存在について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は，医学博士の学位を得る資格があると認める。